

作成日 2016/02/10
改訂日 2018/02/20

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 フロンクリート防滑用 主剤 クリーム
 製品コード 600415
 整理番号 HNT003947-2
 供給者の会社名称 東日本塗料株式会社
 住所 124-0006 東京都葛飾区堀切3丁目25番18号
 担当部門 品質保証部
 電話番号 0480-65-5880
 FAX番号 0480-65-5798
 緊急連絡電話番号 0480-65-5880
 推奨用途及び使用上の制限 塗料

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康有害性 発がん性 区分2
上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語
 危険有害性情報
 注意書き
 安全対策

警告
 H351 発がんのおそれの疑い
 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)

応急措置

保護手袋を着用すること。(P280)
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)

保管
 廃棄

施錠して保管すること。(P405)
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
アンモニア	0.1~1.0%	—	有り	既存	有り
酸化チタン	1.0~10%	—	有り	既存	13463-67-7

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表

アンモニア(法令指定番号:39)(0.1%)
 酸化チタン(IV)(法令指定番号:191)(5.85%)

4. 応急措置
- 吸入した場合
 皮膚に付着した場合
 眼に入った場合
 飲み込んだ場合
5. 火災時の措置
- 消火剤
 使ってはならない消火剤
 特有の危険有害性
 特有の消火方法
 消火を行う者の保護
6. 漏出時の措置
- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 環境に対する注意事項
 封じ込め及び浄化の方法及び機材
 二次災害の防止策
7. 取扱い及び保管上の注意
- 取扱い
 保管
8. ばく露防止及び保護措置
 設備対策
- 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。
 水で数分間注意深く洗うこと。
 口をすすぐこと。
 医師の診断、手当てを受けること。
- 泡、噴霧水、乾燥砂、粉末、炭酸ガス
 情報なし。
- 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
- 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- 関係者以外は近づけない。
 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
 不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 接触、吸入又は飲み込まないこと。
 排気用の換気を行うこと。
 『10. 安定性及び反応性』を参照。
 施錠して保管すること。
 保管時の温度は5℃以下、あるいは40℃以上にならないようにすること。
 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
- 特別な換気要求事項はない。

保護具	呼吸器の保護具	必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。
	手の保護具	必要に応じて個人用保護手袋を使用すること。
	眼の保護具	必要に応じて個人用の眼の保護具を使用すること。
	皮膚及び身体の保護具	必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質
外観

臭い
臭いのしきい(閾)値
pH
融点・凝固点
沸点、初留点及び沸騰範囲
引火点
蒸発速度
燃焼性(固体、気体)
燃焼又は爆発範囲

蒸気圧
蒸気密度
比重(密度)
溶解度
n-オクタノール／水分
配係数
自然発火温度
分解温度
粘度(粘性率)
動粘性率

物理的状态
形状
色

液体
液体
淡黄色
微臭
データなし
データなし
データなし
100

下限
上限

引火せず
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
1.03
データなし
データなし
データなし
データなし

10. 安定性及び反応性

反応性
化学的安定性
危険有害反応可能性
避けるべき条件
混触危険物質
危険有害な分解生成物

情報なし。
通常の温度、圧力の条件では安定である。
通常の条件で危険有害な反応は起こらない。
加温、火気、凍結
危険有害反応可能性参照
情報なし。

11. 有害性情報

急性毒性
皮膚腐食性及び皮膚刺激性
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性
呼吸器感作性又は皮膚感作性
生殖細胞変異原性
発がん性

生殖毒性
特定標的臓器毒性(単回ばく露)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)
吸引性呼吸器有害性

データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
酸化チタン(IV)が5.7% \geq 1%のため、区分2に該当。
データなし
データなし
データなし
データなし

12. 環境影響情報			
水生環境有害性(急性)			データなし
水生環境有害性(長期間)			データなし
オゾン層への有害性			モントリオール議定書の附属書に列記された物質を含まない。
13. 廃棄上の注意			
残余廃棄物			<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
汚染容器及び包装			
14. 輸送上の注意			
国際規制	<p>海上規制情報 Marine Pollutant Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II ,and the IBC code. 航空規制情報</p>	<p>該当しない Not applicable Not applicable</p>	
国内規制	<p>陸上規制 海上規制情報 海洋汚染物質 MARPOL 73/78 附 属書II 及びIBC コー ドによるばら積み輸 送される液体物質 航空規制情報</p>	<p>該当しない 取扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従う。 陸上輸送 消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合は、法令の輸送について定めるところに従う。 海上輸送 船舶安全法に定めるところに従う。 航空輸送 航空法に定めるところに従う。 該当しない 該当しない 非該当 非該当 該当しない なし</p>	
緊急時応急措置指針番号			
15. 適用法令			
労働安全衛生法			<p>名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)</p>
水質汚濁防止法			<p>腐食性液体(労働安全衛生規則第326条) 有害物質(法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)</p>

海洋汚染防止法

個品運送P(施行規則第30条の2の3、国土交通省告示)

有害でない物質(施行令別表第1の2)

有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)

有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)

輸出貿易管理令別表第1の16の項

外国為替及び外国貿易法

労働基準法

疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)

16. その他の情報

連絡先

参考文献

東日本塗料株式会社

溶剤便覧

製品評価技術基盤機構(NITE)

メーカーSDS

日本工業標準調査会「JISZ7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」

日本工業標準調査会「JISZ7252 GHSに基づく化学品の分類方法」

日本塗料工業会編集「容器イエローカード(ラベル方式)塗料マニュアル 改訂版」

日本ケミカルデータベース製物質データベース

その他

[注 意] 危険性・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。

この製品の製品安全データシートの記載内容のうち含有量、物理化学的性質などの値は、保証値ではありません。

記載内容は現時点で入手できる資料、情報に基づいて作成しておりますが、すべての化学品には未知の有害性があり得る為、取扱いに当たっては細心の注意が必要です。

注意事項は通常の手取り扱いを対象としたものである為、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご使用下さい。

又それらが実際の使用状況に相応しているか、環境保護の目的にそっているか、あるいは貴社の従業員の方々や貴社製品購入者の健康・安全を損なわないか等については、貴社の責任にてご判断願います。